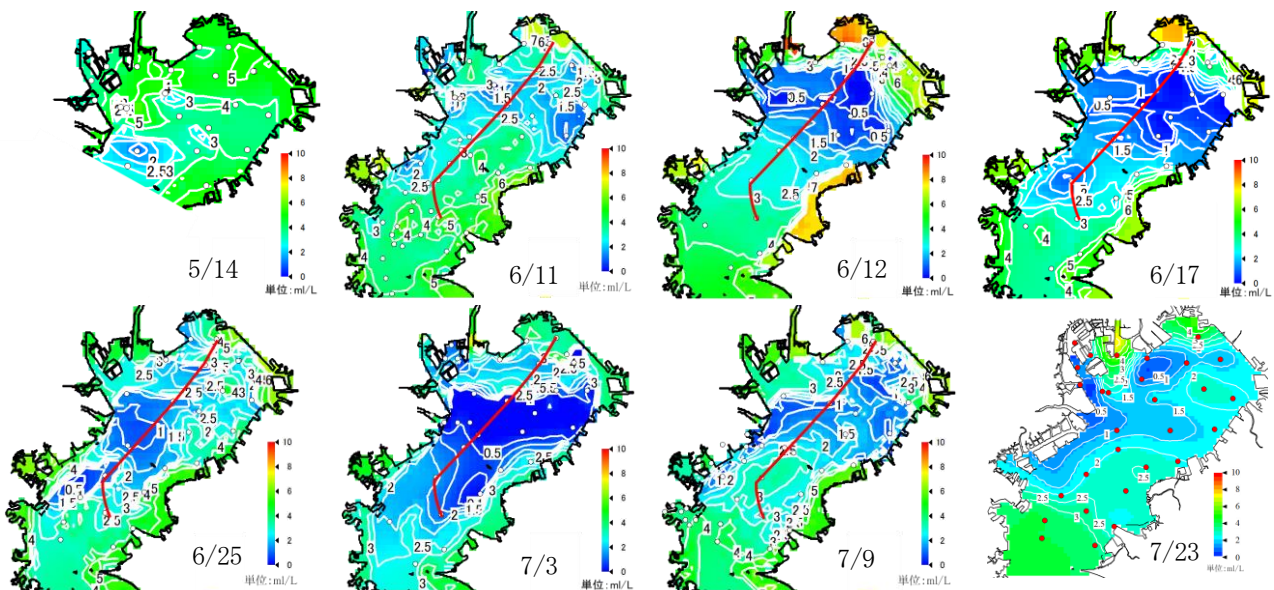


2024 年（令和 6 年）の貧酸素水塊 まとめ

2024 年の東京湾における貧酸素水塊の発生状況についてまとめました。調査日ごとの底層の溶存酸素量（DO）分布を図 1 に示します。貧酸素水塊は 5 月 14 日に初確認され、その後、7 月下旬にかけて分布域が拡大しました。7 月 29 日には内湾全域で溶存酸素量が 0.5 ml/L 以下と強く貧酸素化し、本年度最大規模となりました。内湾全域で高水温が続いたため、9 月中旬まで DO が 0.5 ml/L 以下の海域が長期間にわたり広く分布しました。9 月下旬から 10 月上旬に北寄りの風が吹いたことにより、湾奥で青潮が発生したため、分布域は大きく縮小しました。その後は、鉛直混合の進行等により徐々に縮小しましたが、11 月上旬まで完全には消失せず、最終的に 11 月 22 日に解消を確認しました。

鉛直縦断面における貧酸素水塊（DO 2.5 ml/L 以下）の占める割合から算出した規模をみると、7 月 3 日までは直近 10 年の平均並みに推移していましたが、その後急速に増加し、7 月 29 日には 58 %となりました（図 2）。これは本年最大規模であり、直近 10 年間でも最大規模となりました。その後、9 月中旬まで 50 %以上の規模で推移していましたが、青潮の発生と、急激な水温の低下に伴い 9 月下旬には 11 %まで減少しました。貧酸素水塊の年最大規模は 58%と、前年と比較して 12%増加しました（図 3）。

千葉県水質保全課によると、青潮は 8 月 16～20 日、9 月 24 日～10 月 7 日、の計 2 回発生しました。



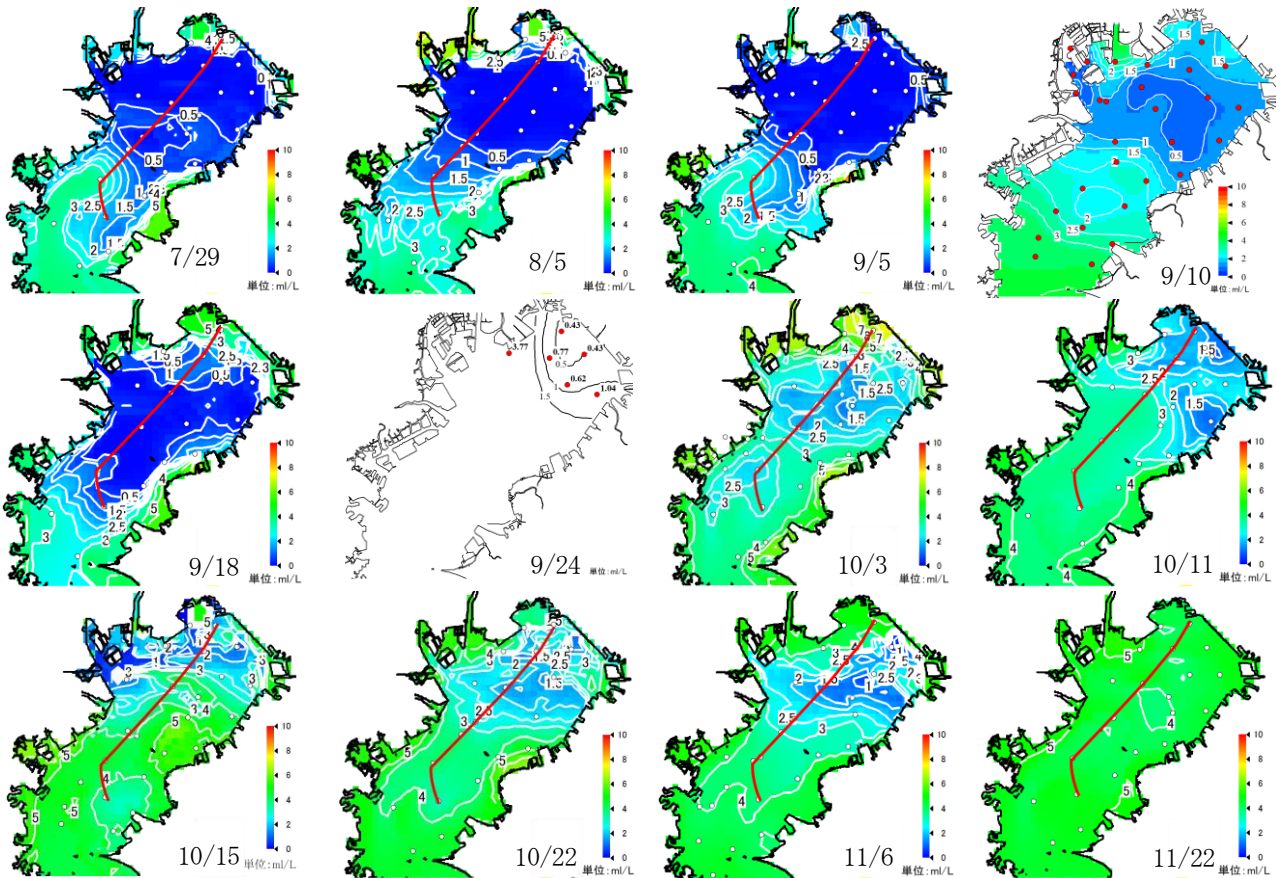


図1 底層の溶存酸素量分布 等値線の単位はml/L 赤線は縦断ライン

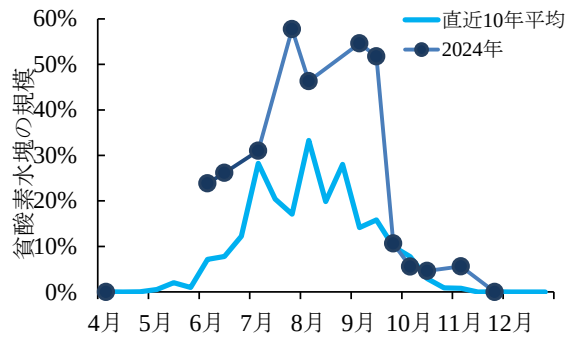


図2 縦断ラインにおける貧酸素水塊の規模の季節変化

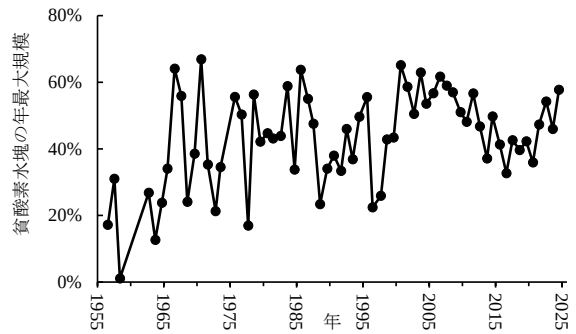


図3 貧酸素水塊の年最大規模の経年変化